

ハッピーロード美里デイサービスセンター

防犯マニュアル

目的

- 施設における防犯の具体的な方法や職員の役割等を明らかにし、防犯体制を確立する。
- 作成した防犯マニュアルを周知することで、施設、保護者や家族、地域が一体となった防犯体制を明確にし、地域全体で利用者の安全を守る意識を高める。

日常の対応

- 日ごろから出入口を限定し、必要に応じて施錠するなど、適切に管理する。
- 来訪者には、必ず、所定の用紙に必要事項の記載をしていただく。
- 来訪者へのあいさつ、声かけを励行し、受付を行っていないと思われる来訪者には、用件をたずねる。用件が明らかで正当な場合は、案内する。
- 来訪者の予定があらかじめわかっている場合は、朝の打ち合わせ等で確認し、全職員に周知する。
- 警察や警備会社、地域との連携を日頃から心がける。

緊急時の対応

☆施設への不審者侵入

※ 施設外活動の場合は、これを参考に状況に合わせて対応する。

①. 退去を求める

〈正当な理由のない者が施設内へ立ち入った場合の初動対応〉

- 正当な理由のない者が施設内に立ち入った場合、他の職員に連絡し協力を求める。
- 身を守るため、相手と一定の距離を保ちながら対応し、退去するよう丁寧に説得する。
- 退去の説得に応じない、暴力的な言動をするなどの行動が見られた場合には、不審者として速やかに警察へ連絡する。

②. 利用者の安全確保

〈不審者が周囲に危害を加える行動をとった場合の対応〉

- 利用者の避難誘導、安全確保を最優先に行動する。
- 不審者が暴力行為を働き、抑止できない場合には、周囲に危険を知らせるとともに、机や椅子などの身近にあるものを活用し、不審者の行動を制限する。
- 事件に気付いた職員は、直ちに全職員に知らせるとともに管理職に報告し、警察・消防等に通報する。

③. 誘導・救護・引渡し

〈利用者への被害の拡大を防ぐための対応〉

- 危険のない方向へ利用者を誘導した後、安全の確認と状況の掌握をする。
- 避難場所は周囲の状況を的確に判断し、決定する。
- 避難場所から移動せず、利用者を見守り、保護する職員を決める。
- 負傷者がいる場合、応急手当に着手するとともに救急車の出動を要請する。
- 救護班は、誰がどのような状態で応急処置を受け、どこかの医療機関へ移送したかを記録し、保護者に連絡する。
- 安全確認後帰宅の判断を行い、安全に利用者を保護者に引き渡す。

退去を求めるまでの留意点

- 不自然な場所に立ち入っていたり、用件が明確でなく、不審な所持品・挙動などが見られたりする場合は複数の職員で対応するなど慎重に対処する。
- 一旦退去しても再び施設内に侵入したり、施設周辺に居続けたりする可能性があるため、しばらくの間様子を観察する。
- 警察や関係機関に報告し、地域や近隣の施設等と情報を共有する。

利用者の安全確保についての留意点

- 利用者が近くにいる場合は、助けを求めるために利用者だけを残してその場を離れることはせず、大声、防犯ブザー、ホイッスル等を活用し、周囲に知らせる。
- 不審者から利用者を遠ざけ、安全な場所に避難させる。
- できるだけ複数で対応し、周囲にある机や椅子、消火器等あらゆる物を利用して防御する。不審者が凶器を持っている場合は無理に取り押さえようとせず、不審者の行動・移動を阻止しながら警察の到着を待つ。

誘導・救護・引渡しについての留意点

- 避難場所については、予め複数箇所を選定しておき、緊急時の状況に応じた安全な箇所に決定する。
- 避難場所における利用者の安全確保に必要な人員を配置する。
- けがをした利用者の有無を確認する。負傷者がいる場合は、速やかに救急車の出動を要請するとともに応急処置を行い、管理職に報告する。なお、病院へ移送する際は、職員が付き添い、保護者が来院するまで待つ。
- 施設内や施設周辺を巡視し、けがをした者が残されていないか確認する。
- 利用者と施設周辺の状況を把握したうえで帰宅を決定する。必要に応じて保護者に連絡し、来所を要請する。
- 引渡しに際しては、職員が寄り添い・声かけなどを行う。

